

増補江戸吐

六

和書門				
二	三	七	七	四
一	〇	六	函	號
六	九	册	架	類

内閣文庫			
番	函	冊	架
五	五	冊	架
三	七	七	四
冊	號	類	
和書			

内閣文庫			
番號	和	23774	
冊數	6 (6)		
函號	174	54	



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八
第九
第十
第十一
第十二

増補の巻目録

吉原傾城町

堺町浄瑠璃附風車寺

日向云々

廻向院附西乃年比火事

三股毎夜花火

美岩寺 鉢動寺 并大橋

海福寺

永代橋八幡宮

西本願寺

赤坂氷川明神 付十六

永田馬場乃山王権現

霞が関附



浅草文庫

花道家文庫

此の事と云はれは後日日本に傳へては門を大に開けり
只一方にありて西の名をもとて若し是所の名を
三つ八幡切りて通海にさそ門の内外に
しそ新所系町ありや町とては町あり
海圓とては又さびるを乃大室の名号也とて色を
尚を八つめはさびる系とて八場所乃を前ふり
的製之年乃圓録より取らるるをさびるの事
ゆへに漢史小季延年が次に北方に五個人絶
立一顧傾人城再顧傾人國といふは傾城傾國と
いふ名のあり也天竺ありては飛燕國なるを
あめくハ之代乃時とて是の虞氏揚妻妃王昭君
あしむるはさびるの事也今さびるの事とては

上は乃そめくゆてはこころをさけ國とてか
我のめくは名親院乃西宮に乃千歳松の
子乃根源とて或ハ成の禪師曰始乃勢
妓女佛前前をに國池田の名乃物也
名氣もどそ世めとては世め
江の若しとて江のとては前よ
江に神降を室れゆてはさそ
りりねふ流の女とてさそ
ハ系六系乃若野也
高哉芳野玉門真僧俗吹金銀為塵
五十三夕一夜夢覺來後悔鼻毛人

かのくといはれはさびるの事也今さびるの事とては



Handwritten text in a cursive style, likely a historical document or manuscript. The text is written vertically on the right page of an open book. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a specific location or event. The characters are dense and difficult to read without specialized knowledge of the script.

Handwritten text at the top of the left page, continuing from the right page. It begins with a large character that looks like '一' (one) followed by several characters.

第二

場所 淨福理乃物也 井 風事也

Main body of handwritten text on the left page, continuing the list or entries. The text is dense and follows the same cursive style as the right page. It includes various characters and symbols, some of which may be specific to the document's subject matter.



ひびきと股めくも家月よもやゆきとささやめ
服とらるまこしとては家申れと申れだ
旅の男しつゝまはる秋の比奈今まきぬぬと我らる旅
こまらまはる海色なれぬあやうつとこ
とつらき香るあまの火名れ毎とあがそらうと記す
くよと北に挺の櫓とあし事。只らうとあそを射ら
がと。うらうらあれ一うとまはる枝とさうゆき
とあげうらうらあれ一うとまはる枝とさうゆき
枝とさうとあげうらうらあれ一うとまはる枝とさうゆき

并に孫動寺

それらう二つめ櫓を敷てあし天竺茶をたうら
とハモかん孫動寺と吾ふまはる家の形形と
ん孫動寺中よはあまらうらうと新く造る
り十首在敷の核ひを敷すも造る新く造る
高地山たうあまらうらうと新く造る
後よまはるこしゆきのゆきとあまらうらうと
うらうらうらうとあまらうらうとあまらうらうと
新く造る

第六 奥宮寺

北南入の形はあまらうらうとあまらうらうと
高寺の形はあまらうらうとあまらうらうと

休動寺



原川大橋

休動寺の寺名もあはれなる也。昔、知照の末子、
 休動寺へあがりて、元祿源安の僧たり。其、二十世の
 わとせきとせらる。寛永十八年九月朔日、時年八十歳
 めく、山入寂也。御南寺へ、以天珂山と代、お續あり、
 是と、其、御と、雄冬、乃、其、あり、
 休動寺の名とせり。かくて、其、
 商の年、其、因縁、其、後、其、
 し、
 乃、其、
 蓮、其、
 と、
 若、其、

九年三月のつものつひに。四月十六日。神々を祀りて
毎年の式をなす。その儀を記す。神田にありて。色部人湯
作のうらぐさ。その儀。神田の肉。めづりしく。人家好む。とあり
き。又。安仁年の。改。物。費。首。乃。か。や。を。つ。て。寺。と
あ。れ。大。藏。山。永。代。寺。と。号。せ。し。む。日。又。年。の。改。弘。法。大。師
以。後。お。も。う。ゆ。と。其。沖。告。ふ

永代寺の改。弘法大師の御。心。の。う。ら。む。り。を。と。し
是。よ。つ。て。寺。名。を。改。め。弘。法。大。師。の。御。心。の。う。ら。む。り。を。と。し
永代寺。は。集。會。の。ゆ。一。隻。九。自。の。名。法。後。の。所。に。寺。祖。大
師。乃。西。教。堂。と。き。て。ま。言。三。密。乃。秘。位。と。儀。と。を。れ。ら
び。く。神。前。は。法。院。と。ら。ま。り。の。り。を。て。む。人。の。海。を。り。ん
日。々。年。の。秋。天。下。を。平。の。為。に。神。前。め。く。流。福。馬。と。始

む。是。の。意。の。旨。の。法。式。と。ら。ん。と。な。若。小。假。屋。扱。扱。と。り。ま。し。を
見。り。も。て。て。ま。し。儀。と。下。等。と。あ。り。可。法。二。年。の。改。神。室。の
宮。目。光。社。系。の。序。に。下。向。の。道。は。い。は。し。り。ま。し。う。て。路。ひ。天
下。安。全。の。為。お。目。乃。乃。乃。神。前。は。山。金。額。と。勅。給。ふ。は。ら。り。と
お。院。家。乃。神。録。と。き

永代の。業。久。一。と。い。は。し。り。め。ら。ん。と。な。ぬ。神。が。と。り。ら
き。あ。り。ぬ。と。い。は。し。り。の。根。も。及。ぶ。と。い。は。し。り。永。代。の。寺
お。ふ。は。乃。地。系。又。あ。ら。ひ。し。と。い。は。し。り。東。へ。ま。り。安。房。と。記。し。山
と。見。る。り。南。へ。お。川。池。と。も。目。前。め。く。神。の。方。に。あ。り。の。最
お。ま。い。そ。び。く。成。実。の。方。に。お。池。也。お。池。波。お。か。の。に。見。る。と
島。と。も。い。は。し。り。せ。實。の。方。に。お。池。と。い。は。し。り。海。を。り
乃。改。ら。り。く。地。系。の。根。も。及。ぶ。と。い。は。し。り。同。お。び。く。と。い。は。し。り



舟のあはれなるをよみしは
 うらみとて舟は又水代舟と
 名ふの舟もあまらぬべし

水代舟の浦吹風小舟もそそ
 水代舟の浦吹風小舟もそそ
 水代舟の浦吹風小舟もそそ

第九

舟のあはれなるをよみしは
 うらみとて舟は又水代舟と

あやふまの隊の... 甲流の... 氷の...

赤坂氷川大眼神 并小六

第十

氷河大の社... 天曆年中... 天名... 赤坂...

氷河大の社... 天曆年中... 天名... 赤坂... 氷の...

此二の中七社の内。氣吹の宮。妙心。聖観音也。此二下
七社の内。王子の文。妙心。文珠大寺也。ついでと國家を
饒乃と云ふ。理世安氏乃唱。ついでと東。八洲のら。こに。り
きく。八義七道の来。よ。ついで。後。七。門。院。延。徳。年。中。に。作。り
ひ。の。ま。そ。だ。信。法。縁。乃。為。と。社。の。心。社。と。山。の。心。社。の。心。に
う。つ。い。ひ。て。再。興。快。造。ま。す。奇。跡。有。り。事。也。其。後。く
若。魚。也。又。明。曆。二。年。の。廻。縁。後。今。の。福。地。乃。築。山。を
双。の。勝。地。と。い。ふ。つ。て。上。令。と。う。ち。り。て。は。西。よ。り。し。り。と。ま
し。る。月。日。り。ご。く。あ。じ。て。造。災。の。切。と。し。て。一。年。後
玉。勝。天。ふ。り。ゆ。き。魚。村。朱。着。地。は。朕。ど。ら。神。の。心。社。に
丑。日。也。深。中。乃。大神。事。と。い。は。徳。大。名。を。太。さ。と。産。ち。神
あ。く。あ。く。い。ゆ。せ。ど。か。ら。り。あ。く。せ。ど。づ。り。と。と。て。と。や。と。あ。ふ

此二の中七社の内

此二の中七社の内

此二の中七社の内。氣吹の宮。妙心。聖観音也。此二下
七社の内。王子の文。妙心。文珠大寺也。ついでと國家を
饒乃と云ふ。理世安氏乃唱。ついでと東。八洲のら。こに。り
きく。八義七道の来。よ。ついで。後。七。門。院。延。徳。年。中。に。作。り
ひ。の。ま。そ。だ。信。法。縁。乃。為。と。社。の。心。社。と。山。の。心。社。の。心。に
う。つ。い。ひ。て。再。興。快。造。ま。す。奇。跡。有。り。事。也。其。後。く
若。魚。也。又。明。曆。二。年。の。廻。縁。後。今。の。福。地。乃。築。山。を
双。の。勝。地。と。い。ふ。つ。て。上。令。と。う。ち。り。て。は。西。よ。り。し。り。と。ま
し。る。月。日。り。ご。く。あ。じ。て。造。災。の。切。と。し。て。一。年。後
玉。勝。天。ふ。り。ゆ。き。魚。村。朱。着。地。は。朕。ど。ら。神。の。心。社。に
丑。日。也。深。中。乃。大神。事。と。い。は。徳。大。名。を。太。さ。と。産。ち。神
あ。く。あ。く。い。ゆ。せ。ど。か。ら。り。あ。く。せ。ど。づ。り。と。と。て。と。や。と。あ。ふ

此二の中七社の内。氣吹の宮。妙心。聖観音也。此二下
七社の内。王子の文。妙心。文珠大寺也。ついでと國家を
饒乃と云ふ。理世安氏乃唱。ついでと東。八洲のら。こに。り
きく。八義七道の来。よ。ついで。後。七。門。院。延。徳。年。中。に。作。り
ひ。の。ま。そ。だ。信。法。縁。乃。為。と。社。の。心。社。と。山。の。心。社。の。心。に
う。つ。い。ひ。て。再。興。快。造。ま。す。奇。跡。有。り。事。也。其。後。く
若。魚。也。又。明。曆。二。年。の。廻。縁。後。今。の。福。地。乃。築。山。を
双。の。勝。地。と。い。ふ。つ。て。上。令。と。う。ち。り。て。は。西。よ。り。し。り。と。ま
し。る。月。日。り。ご。く。あ。じ。て。造。災。の。切。と。し。て。一。年。後
玉。勝。天。ふ。り。ゆ。き。魚。村。朱。着。地。は。朕。ど。ら。神。の。心。社。に
丑。日。也。深。中。乃。大神。事。と。い。は。徳。大。名。を。太。さ。と。産。ち。神
あ。く。あ。く。い。ゆ。せ。ど。か。ら。り。あ。く。せ。ど。づ。り。と。と。て。と。や。と。あ。ふ

此二の中七社の内

乃高とて人の家。爰に其處の守れ居敷地を以て
 築きたる城のどくじに居たり。いふもめもなほ此か
 居るとあり。人の人あり。ひりもといふもあり
 ありん孔。あの地は古のめくはなむ。今井は
 善平。爰の今井めくはなむ。この地は古のめくは
 古老の戸つてて。おのくもひりもといふもあり
 いて。山乃林を定めたり。社傍の坊舎數十ヶ所
 酒池のほとに修りあり。いづれと毎の系とのつ
 うは泉あり。おのくの花。あくのこも。あくと
 うも。四季たよ。あくと。あくと。あくと。あくと
 一と。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと
 と數十ヶあり。本社へ新く右へ社を移す。目録大膳たハ

別當勅理院也。社領千石。青附也。相墨一へう。あくと
 右の方ハ奥州二本松乃守れ居敷也。い書院とて。南
 とる。山王乃社。酒池の水。おのく。あくと。あくと
 て。又。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと
 弘文院春秋とす。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと
 夏目應丹羽拾遺之招賦。庭前即景
 實筵礼畢到斜陽。日吉新宮隔水墜
 二本松堅千里緑。森々复木一庭牆
 同席賦晚景。緑樹幾千章
 南薰風袂揚。一樓五月涼
 遠莫外邊熱。弘文学士



かくのどく 絶京とくんと他をさすつと也

第十二

辰用

そのゆくゆくをゆくゆく。なみか〜と〜と〜と。お辰が笑ふはあす
さゆをて 續ふ哉 采妻乃 郊とよ 前大納言 為世

おあぐ〜に〜おあれ用とこれお辰のなるとお辰〜とめん
ま〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

相愛めと。菰刈乃を守の節 夜も。是と古れめく。秋夜別
當實盛なり。城竹ありとまつふ。夏とを 橋田は門とて 海へ

名めあふ花のお辰の橋田也。お辰が笑ふも辰がさげしは代
一天口海。お辰のさげしは代めと生れあがせし

お辰のさげしは代めと生れあがせし。お辰のさげしは代めと生れあがせし

新ひきく。別々。家々。津のり。人々。無む。乃。海。と。そ。
海。有。た。お。ま。い。く。や。う。八。相。と。ひ。さ。く。の。あ。ま。り。と。さ。の。さ。
こ。う。と。し。た。ん。と。お。ま。い。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。さ。と。あ。ま。り。と。さ。
い。う。と。し。た。ん。と。お。ま。い。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。さ。と。あ。ま。り。と。さ。
と。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。
む。お。く。お。ま。い。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。
と。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。
こ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。
古。知。入。知。入。人。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。
知。り。乃。知。り。乃。知。り。乃。知。り。乃。知。り。乃。知。り。乃。知。り。乃。知。り。乃。
あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。
の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。
の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。の。あ。ま。り。と。さ。

貞享四丁卯歲

六月吉日

山下彦兵衛
簾翠屋仁兵衛
鑑屋平右衛門

用板



